

## 研究紀要発刊にあたって

校長 藤井慶博

昨年度(平成31年度)より2か年にわたり「児童生徒の生涯学習力を高める教育課程の編成」というテーマの下、研究に取り組んで参りました。

我が国では「誰もが、障がいの有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会」の実現を目指しています。そのため、誰もが学び続けることのできる社会づくりに加え、人々の多様な生き方・在り方が尊重され、個性や得意分野を生かして参画できる社会であることが求められています。児童生徒一人一人に視点を移すと、学校で身に付けた知識・技能だけで、変化の激しい社会を生き抜くことはできないでしょう。刻々と変化する社会や状況に対して、自ら課題を見出し、課題解決のためにどのようにアプローチが必要なのかを考え、実行し、評価していく力が求められているとの思いからです。

1年目は、「生涯学習力とは何か?」という問いから研究を始め、生涯学習力を「主体的にヒト・モノ・コトに関わり、生涯にわたって学びに向かい、成長しようとする力」と捉え、研修会やワーキンググループを設置し、研究を進めてきました。その結果、生涯学習力を高めるためには「自己理解」と「問題発見」が必要であり、授業づくりにおいては「(ヒト・モノ・コト・地域・社会・学び・未来)とつながる」ことを基盤に、「かかわる」「きづく」「やってみる」という視点の重要性を確認しました。

2年目である今年度は、生涯学習力を高めるための教育課程を具体的に構想するため、「はたらく」「くらす」「たのしむ」といった3つのワーキンググループにおけるミーティングを重ねるとともに、研修会、授業研究会により校外の方々からも幅広く御意見をいただきながら研究をまとめてきました。その結果、小学部では、地域の方々との協働し、本校オリジナルの個別の教育支援計画「私の応援計画」(詳しくは本校HP参照)を作成し、それに基づく授業づくりにつなげていく可能性を導き出しました。中学部では、作業学習を中心に生徒の「気付き」を大切に「はたらく意欲」を高めるための支援を構想し、来年度の作業学習の改善につなげようとしています。高等部では「Dスタディ」という新たな領域を教育課程に位置付け「ヒト・モノ・コト」とつながるネットワークを生かした学びの基盤を構築してきました。

今後は、2か年の研究で構想した教育課程の実践と評価が必要です。とりわけ児童生徒の学びを丁寧に読み取るとともに、障がいの「社会モデル」の観点から、地域のヒト・モノ・コトがどのように障がいのある方々の学びや社会参加を包み込んでいくのかといった観点からの検証も必要と考えます。

末尾になりますが、本研究に全面的に御協力いただきました、文部科学省、秋田県教育委員会、秋田大学をはじめ、多くの方々に深謝申し上げます。